

デジタル・トランスフォーメーション戦略

DX戦略 2027

株式会社船場 証券コード:6540

1

中期経営計画方針

- 企業理念、Vision、Mission、スローガン
- 重点テーマ

2

当社のDX戦略

- 当社を取り巻く環境
- ビジネスモデルの方向性
- 重点施策との相関
- 基本戦略
- 全体図：7つの戦術
- 戦術：成果指標・価値創出
- 戦術：デジタル変革基盤
- DX推進体制図

1

中期経営計画方針

1 中期経営計画方針 企業理念、Vision、Mission、スローガン

企業理念

SUCCESS PARTNER

Vision

Good Ethical Company

Mission

未来にやさしい空間を

中期経営計画2027スローガン

***Create More Fun
and More Fans !***

私たちの発想が“ビジネスを楽しく”する！

そして“熱狂的なファン”を増やそう！！

1 中期経営計画方針 重点テーマ

5つの重点テーマを公表



未来を創る人材の育成と獲得



“ Good Ethical Company ” のファンベース構築



サービス領域の拡大と提供価値の向上



持続的成長を支えるサプライチェーン



グローバル市場の深耕

2

当社のDX戦略

2 当社のDX戦略 当社を取り巻く環境

当社の属する内装ディスプレイ業・建設業に内在する課題やデジタル技術がもたらす影響を踏まえた当社を取り巻く環境は次のとおり。

内在する現状の課題



労働力の不足

- 内装業・建設業での残業時間の上限規制撤廃（2024年4月から）により、1人当たりの労働時間の減少
- 建設技能者（職人）の減少（2014年度の344万人から2024年度には303万人まで減少）（※1）



労働生産性のハンデ

- 「単品受注生産」と「屋外生産」といった特徴からビジネスモデルのコモディティ化（汎用化）が困難
- 建設業の付加価値労働生産性は20年間変わらず、同レベルであった製造業と差が広がり続けている

デジタル技術がもたらす影響



働き方の抜本的な見直し

- テレワークや在宅勤務への移行によるビジネスチャットやウェブ会議等のデジタルツールの普及
- 事業継続にはデジタルが不可欠との認識から、働き方の抜本的な見直しが加速



生産性向上＋新事業創出

- 設計、施工、運用、保守の局面でBIMが事業のコア技術
- 更に、AI（※2）やロボット、AR/VR（※3）、Con-tech等のデジタル技術の活用により、生産性向上を図る
- BIMやAR/VR等のプラットフォーム事業等の新事業創出

※1 一般社団法人日本建設連合会 <https://www.nikkenren.com/publication/handbook/chart6-4/index.html#link01>

※2 「AI」とは、Artificial Intelligenceの略称で、「人工知能」と呼ばれる。人の知的活動の一部をソフトウェアにより人工的に再現する技術のこと

※3 「AR」とは、Augmented Realityの略称で、「拡張現実」と呼ばれる。現実世界にコンピュータグラフィックなどで作るデジタル情報を加える技術のこと
「VR」とは、Virtual Realityの略称で、「仮想現実」と呼ばれる。人工的につくられた仮想空間を現実のように体感させる技術のこと

2 当社のDX戦略 ビジネスモデルの方向性

デジタル技術の投入により、既存ビジネスモデルの拡張と新規ビジネスモデルの創出を目指します。

既存ビジネスモデルの拡張

商業領域から注力領域に
拡張する空間創造の
請負業

Contractor

業務態様の転換



知見・ノウハウを活かす

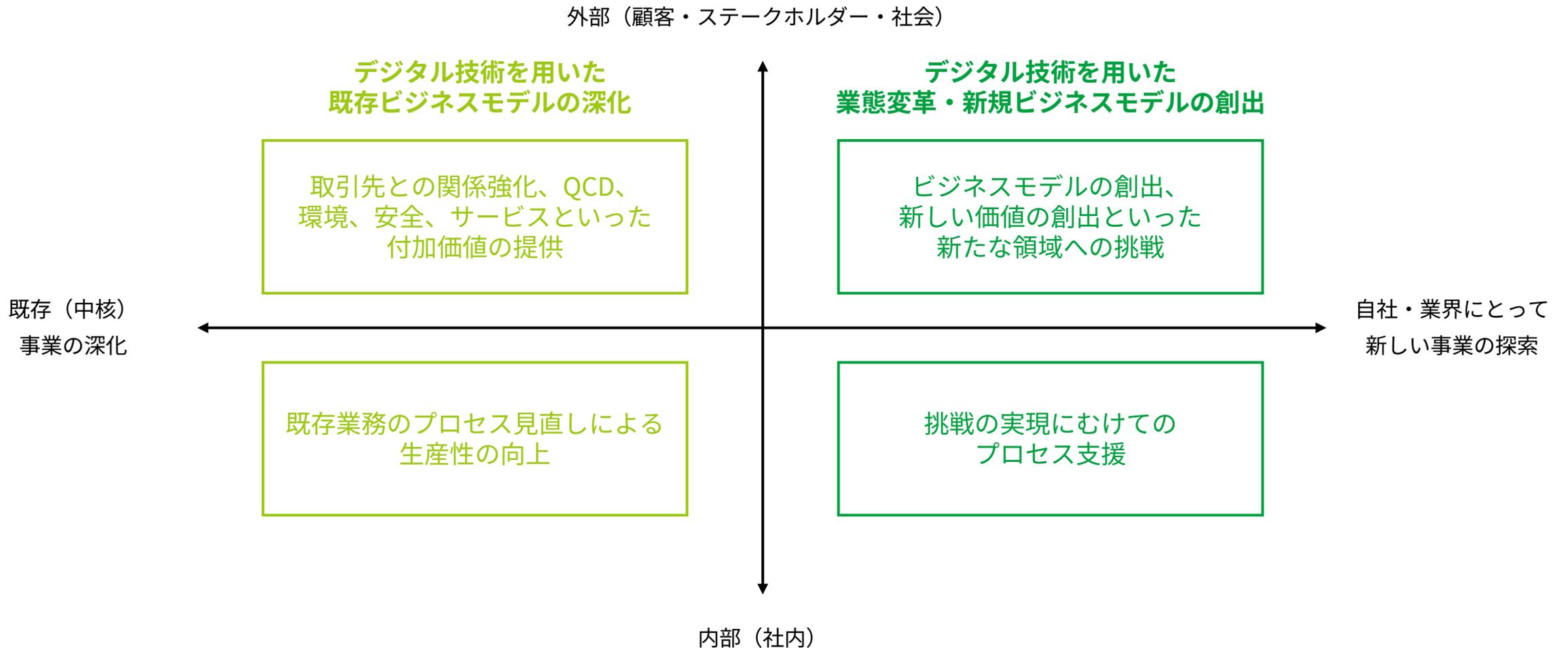
新規ビジネスモデルの創出

あらゆる領域で
クライアントの課題を解決する
空間創造サービス業

Service & Solution Provider

2 当社のDX戦略 基本戦略

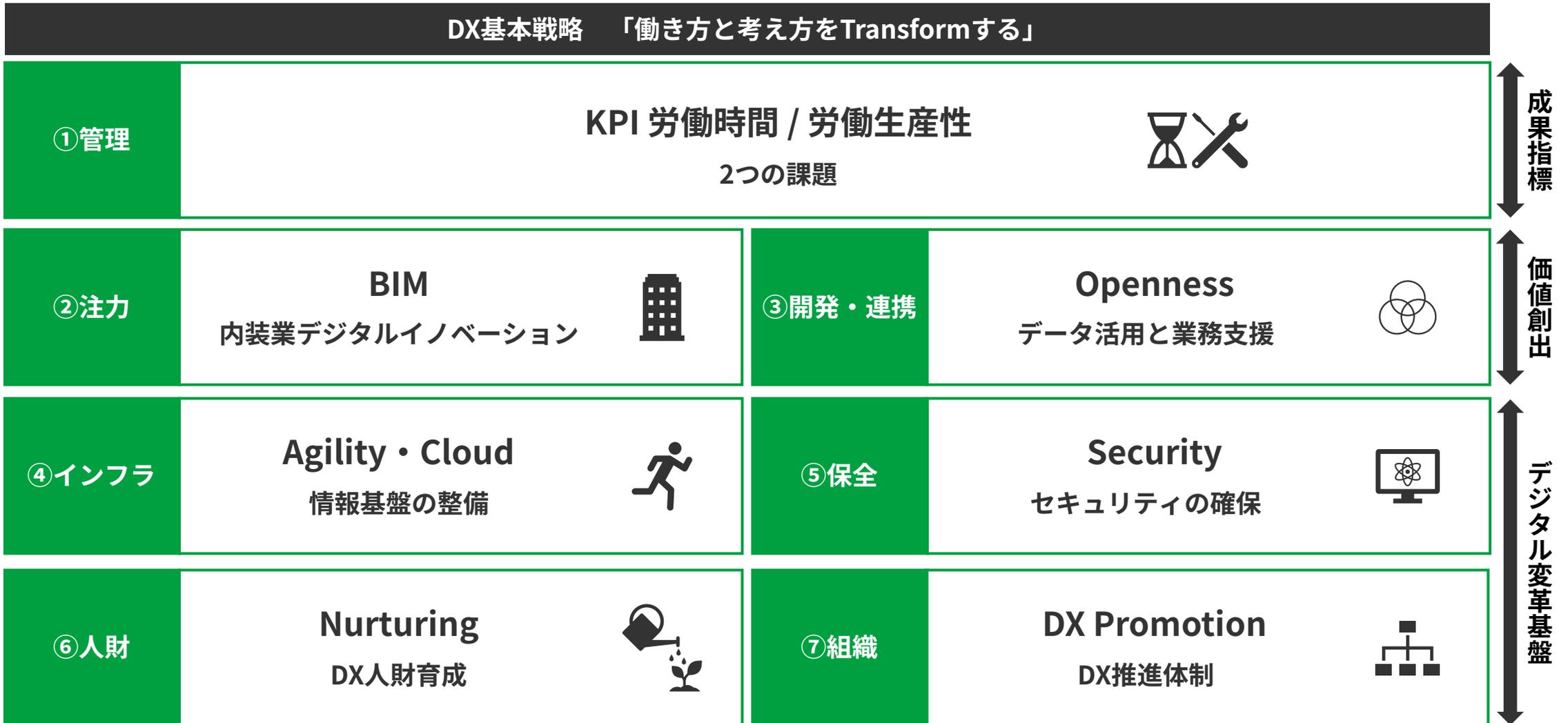
デジタル技術を用いることにより、重点施策の実現を後押しします。



2 当社のDX戦略 基本戦略

働き方と考え方を Transform する

2 当社のDX戦略 全体図：7つの戦術



2 当社のDX戦略 戦術：成果指標・価値創出

成果指標

①管理

KPI 労働時間 / 労働生産性 2つの課題

当社が属する内装業・建設業が直面する2つの課題に正面から取り組みます。ビジネスの繁閑を考慮しつつ、2つのKPIを用いてDXによる投資効果をモニタリングします。



価値創造

②注力

BIM 内装業デジタルイノベーション

BIM内装業先駆企業の一角として更なるビジネス活用を加速していきます。BIMデータの全社一元管理による生産性向上と新たなサービスの創出に向けて、BIMと連携したデジタルプラットフォーム構築を目指します。



③開発・連携

Openness データ活用と業務支援

営業活動、物件情報、協力企業（パートナー）情報などのデータを可視化、分析、処理の自動化を実現するため、環境整備やアプリ開発を行います。社員一人ひとりが情報に触れ、自発的に考える環境づくりを目指します。



2 当社のDX戦略 戦術：デジタル変革基盤

デジタル変革基盤

④インフラ

Agility・Cloud 情報基盤の整備

IT環境の整備と投資を進め、利便性の高いハードウェアとソフトウェアを提供し、快適な業務環境を構築します。
また、クラウド技術を活用し、場所にとらわれず、社員のライフスタイルを考慮したハイブリッドワークを支援します。



⑤保全

Security セキュリティの確保

セキュリティは重要な経営課題であり、整備が不十分ではDXの推進が困難です。私たちは、安全で安心な環境を提供するとともに、問題が発生した際には被害を最小化し、早期に復旧する体制を構築します。



⑥人財

Nurturing DX人財育成

当社のビジネスの根幹には、課題解決や目標達成への挑戦があります。そのためには、デジタル技術の活用が不可欠です。デジタルおよび関連する基礎知識や専門技術の習得を目指し、社員の成長を支援します。



⑦組織

DX Promotion DX推進体制

DX推進のため、DX本部を中心に経営層や各部門及びプラットフォームや外部ベンダーやと連携し、経営課題の解決や目標達成に向けてデジタル化を推進します。



2 当社のDX戦略 DX推進体制図

実務執行総括責任者としてDX本部長を配置し、DX戦略をリードする体制を構築しています。

